予 算 特 別 委 員 会 (2 日 目)

1. 開会及び閉会 令和6年3月27日(水) 午後4時00分 開会
午後6時30分 閉会

2. 場 所 葛城市役所 新庄庁舎 第1委員会室

3. 出席した委員

委員長	藤井本	浩
副委員長	吉村	始
委員	西川	善浩
〃	柴田	三乃
〃	坂本	剛司
〃	梨本	洪珪
〃	奥本	佳史
〃	谷原	一安

欠席した委員 な し

4. 委員以外の出席議員

議長	川村	優子
議員	松林	謙司
〃	増田	順弘

5. 委員会条例第19条の規定により、説明のため出席した者の職氏名

市長	阿古	和彦
副市長	東	錦也
教育長	椿本	剛也
財務部長	米田	匡勝
財政課長	内蔵	清
保健福祉部長	森井	敏英
社会福祉課長	山岡	邦啓
上下水道部長	井邑	陽一
水道課長	福森	伸好

6. 職務のため出席した者の職氏名

事務局長	板橋	行則
書記	新澤	明子
〃	神橋	秀幸

7. 付 議 事 件 (付託議案の審査)

議第28号 令和6年度葛城市一般会計予算の議決について

議第35号 令和6年度葛城市水道事業会計予算の議決について

開 会 午後4時00分

藤井本委員長 ただいまの出席委員は8名で定足数に達しておりますので、これより予算特別委員会を開会いたします。

昨日、最終日でございましたけども、遅くまで、21時、夜の9時ぐらいになっていましたということで、1日延会をしていただいて、今日また審議を再開させてもらうわけでございます。

令和6年度予算についてということでございますけども、皆が葛城市のために、いいまちづくりをつくろうということでは一生懸命に議論していただいていることに感謝を申し上げたいと思います。よりよい結果を出していただきますことをお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

それでは、発言される場合、必ず挙手をいただき、指名をいたしますので、マイクの発言ボタンを押し、赤いランプというのを確認してからご起立いただいて、マイクを近づけてご発言されるようお願いいたします。

葛城市議会でのマスクの着用については、個人の意思に委ねられております。葛城市議会でのマスクを着用したままの発言についても認めておりますので、ご承知おきを願います。

また、会議出席者のタブレット端末等の情報通信機器の使用を認めておりますので、ご承知おきください。

発言につきましては、簡単明瞭にいただき、会議時間の短縮にご協力いただくようお願いいたします。

委員外議員のご紹介をいたします。増田議員です。

それでは、昨日に引き続き、議案審査に入ります。

議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算の議決について、質疑を行います。

質疑はないですか。

谷原委員。

谷原委員 よろしく申し上げます。1点だけ質問させていただきたいと思っております。

昨日、本会議で予算特別委員長の報告があつて、この間、予算特別委員会で討論した後の採決が原案否決ということになったということの報告があつた後に、予算の修正案が理事者側から、市長から提出されたということで、引き続き修正案を再付託して、今日の議論に至っているわけでありまして。

修正案の中身は、社会福祉協議会に対する補助金の減額修正でありますけれども、そのほかにも質疑の中で市長が、令和6年度一般会計予算の執行に当たっては、予算特別委員会での議論を踏まえて執行していきたいという旨のお話がありました。そのお話を受けてかどうか分かりませんが、奥本委員のほうからデザインの使い方について質問が出たと思います。私も、これから質疑が終結して討論、採決になりますので、再度、私が一般会計予算に対して賛成できないところがあります一番大きなところをもう一度お聞きして、さっき述べました市長のご答弁もありましたので、どういうふうにお考えかということ再度聞いて、判断

をしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

質問は、18歳までの子どもに係る医療費一部負担金の無償化、いわゆる18歳までの子ども医療費の完全無償化及び保育、第2子以降の保育料を完全に無償化することの、2つの大きな子育て世帯支援の事業の予算が、令和6年度葛城市一般会計予算に計上されております。

問題は、その財源なんですね。委員長報告にもありましたけれども、一般財源ベースで約1億3,700万円の増額となります。純増になるわけですがけれども、この増額分については、基本的には一般財源で賄っていかなければならないと。事業によっては普通交付税において措置されるものがあるが、措置対象とならない場合は、特別交付税において、市の特殊事情案件として、関係省庁や県選出国會議員への陳情を着実に行って、財源の確保に努めているところであるとあります。

そこで、ちょっとお聞きしたいんですが、特別交付税というものがどういう財源となるのか、どういうものなのか。国への申請をされて、交付決定通知等あって、交付されるのが一体いつの時期になるのか。この特別交付税について、どういうものかについてお尋ねいたします。

藤井本委員長 米田部長。

米田財務部長 財務部の米田でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、特別交付税でございますけれども、さきの答弁でもお答えさせていただきましたように、まず、普通交付税で措置されない部分、市の独自の事業であったり、要は特殊事情案件ということで、そういう言葉でさきに説明させていただきましたけれども、そういった事業に関しまして、市が国のほうに、こういう事業をやっています、あります、特殊な事情がありますということで申請をさせていただいて初めて、それが満額いただけるかどうかという部分につきましては、確かに不明確な部分がございますが、それに対していただける交付税となっておりまして、年2回、12月と3月に交付いただける交付税でございます。

以上でございます。

藤井本委員長 谷原委員。

谷原委員 つまり、年度当初にちゃんと措置が財源として確定しているものではないと。申請してそれが交付されるとしても、12月あるいは3月、年度末となるということが分かりました。

もう一つですけど、この事業は継続的にやっていく、扶助費として義務的に経費として、もう毎年、経常的に支出がされていくものだと理解しています。その財源として、特別交付税を今後、財源として特別交付税を毎年申請して充てていくということなんですか。もしそうであれば、特別交付税の財源の性格は経常一般財源ですか。それとも臨時一般財源ですか。どちらになるのか。この2つ、ちょっとお願ひしたいんです。

つまり、次年度以降ずっと特別交付税措置を求めて申請して、これに財源を充てていこうとされるのかどうか。それから、そもそも特別交付税は経常一般財源になり得るのか。つまり、もう、経常的に扶助費として毎年出ていくものですよ、財政上の性格として、子ども医療費無償化と保育料無償化は。この2点、ちょっとお願ひします。

藤井本委員長 米田財務部長。

米田財務部長 財務部の米田でございます。

この特別交付税につきましては、考え方なんですけども、経常収支比率を算出する上におきましては、要は経常的な一般財源として含まれるものではございません。ただ、地方交付税は普通交付税、特別交付税で94%と6%の割合で分別されておりますので、大きなくくりとしては必ず地方にいただける財源でございますので、経常収支から違う観点でいえば、経常的な一般財源であるという認識を持っております。

それから、特別交付税の申請につきましては、当然、毎年、国のほうにはやらせていただくつもりでございます。その中で、先ほど申し上げましたけども、幾らそこで財源が確保されるかどうかというのは、不明確なところはございますけども、財源確保をしなければならないという観点からはもう、間違いなくその部分で申請して、財源の確保のほうに努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

藤井本委員長 谷原委員。

谷原委員 ちょっとだけあれですけど、いわゆる財源のくくりとして、財政上ですよ。財源のくくりとして特別交付税は、経常一般財源等と呼ばれる文言に分類されるのか、臨時一般財源等と呼ばれる分類になるのか、どちらかちょっとお答えいただきたいんですけど。

藤井本委員長 答弁、もう一度お願いします。

米田財務部長 答弁漏れで申し訳ございません。くくりといたしましては、経常的な部分ではない財源になります。

谷原委員 財政の一般的な教科書を見ると、特別交付税は臨時一般財源等になっています。だから経常収支比率の中では、そこから省かれることがなりますよね。要は経常的な一般財源でないわけですから。意見になりますけれども、何とか財源として特別交付税が安定的にもらえるかのような印象で受け止めるんですが、先ほどありました地方財政計画の中で、94%と6%で普通交付税と特別交付税を分けて、全国の自治体に特別交付税として地方自治体から上がってくる様々な要望、陳情をそこに入れて、地方に交付しているわけですけども、基本はやっぱり、災害対策などの臨時的な支出にこれは充てられると。したがって、今年度につきましては、能登半島の地震があつて、これには特別交付税が相当充てられるだろうと思うんですね。

ですから、本当に葛城市の子ども医療は特別な措置ですよ。全国の自治体がやりたがっている。けれども、葛城市は先陣切つてやる。特別かもわかりませんが、これがどの程度認められるか。しかもそれを毎年、ここを当てにすると。年度の頭には、財源として確定していないわけですよ。だから、これでは私はいかがかなという思いがあります。政策的判断を市長がされたわけですけども、この点については疑問だなということだけ、ちょっと言うだけにとどめまして、あとはもう、さきの予算特別委員会での討論でも申し上げましたので、また今度、討論でもまた言うことになるので、時間を重ねることになりますので、これ以上言いませんので。

以上です。

藤井本委員長 ほかに。

(「なし」の声あり)

藤井本委員長 質疑ないようですので、質疑を終結いたします。

議員間討議、希望される方おられますか。

(「なし」の声あり)

藤井本委員長 ないようであれば、討論に入ります。

討論はありませんか。

谷原委員。

谷原委員 私は、令和6年度一般会計補正予算の修正案に反対の立場から討論をいたします。

基本的なところで、令和6年度一般会計予算、修正もありましたけれども、大きなところで賛成することができないということでもあります。先ほど質疑の中で申し上げましたけれども、この予算の非常に大きな目玉というのは、18歳までの子ども医療費の完全無償化と、今、ゼロ歳から2歳までの方は保育料有料になっていますけれども、第2子以降、全て無償化にするという内容であります。

これは、全国の地方自治体でも、この1つでさえやっているところはまだ数少ない。2つもやっているというのは恐らく、葛城市が最初になるんだらうと私は思います。そういう意味では大変画期的な事業であると考えます。

日本共産党は3つのゼロということで、保育料の無償化、それから子ども医療費の無償化、給食費の無償化を掲げて、全国で様々な取組をやっておりますけれども、しかし、財源の裏づけがあって、そして、ほかの財政支出とのバランスを考えてこれをやっていく、継続的に将来にわたって財源の見通しを持ってやっていくことが大事だと考えております。だから、ゴールには賛成ですよ。ゴールとしてこういうものを我々も持っているけれども、その実現においては、どの市町村も年齢制限を設けたり、所得制限を設けたり、段階的にほかの財政バランスを考えて導入をしておられます。それを、ゴールに一気にアクセルを吹かしていくようなことでは、私は、今の葛城市の財政事情、経常収支比率がとても高くて、財政の弾力性がなくなる、なくなっている。つまり、財政のゆとりがなくなっている段階で、さらにこういう義務的な経常的な、毎年これだけの、先ほどありました1億3,700万円を毎年、義務的に支出しなければならない。

問題は、経常収支比率にしてもそうですけれども、財政の硬直化、弾力性を失うというのは、将来の世代が、我々の未来の世代が葛城市で新たな政策、時代に応じた新たな政策を未来世代がやろうとするときに、もう、財政的余裕はないということなんですよ。今の我々の世代が未来を先食いする。これは今の時代、SDGsとか環境問題が言われている中で、我々の世代の責任として、健全な財政を将来残していく。これは我々の責務だと思っております。

だから、日本共産党としては、この事業、これをやるということは、理想としては賛成だし、ぜひそれに向かっていくんだけれども、やはり、今の葛城市の現状の財政事情に応じて、段階的にそこへ行きましょうということで、計画的にやるんだったら私は大賛成です。

しかし、一気にそこへ財源の裏づけがない、特別交付税を当てにする、結局は財政調整基金を取り崩していくことになるでしょう。

それ以上に問題なのは、先ほど言いました、財政がますます硬直化することなんです。この点については、梨本議員が一般質問でも取り上げられました。葛城市の住みやすさランキングで全国34位、2023年のデータブックではそうなっておりました。しかし、財政の健全度では、葛城市は同じデータブックでは非常に低い。とりわけ弾力性という点では下から二十何番目ぐらいということですから、34位の上からじゃなしに、下の方がもっと順位が、下の順位が高いという弾力性のなさなんですよね。そこに、さらに今年度、こんなに大きい扶助費、この経常的な支出をなぜ予算化するかと。

本当に葛城市の将来の世代が、新しい時代に応じた政策的な財源、余裕を失う、そんな予算を私は決めることはできないと。これは根本的な問題やと思っております。

以上をもって、私は令和6年度葛城市一般会計予算の修正案に反対いたします。

以上です。

藤井本委員長 ほかに討論ございませんか。討論。

(発言する者あり)

藤井本委員長 いや、もう討論はどちらでも結構ですよ。反対が出ましたけども。

(発言する者あり)

藤井本委員長 賛成討論、賛成ですか。

じゃあ、柴田委員。

柴田委員 私は、議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算に賛成の立場で討論いたします。

私はまず、問題にしていたのは、ちょっと気になっていたのは、社会福祉協議会の補助金の金額が果たして正しいのか、そしてそれが適切に使われているのか。市長が会長であっては判断ができないというところに、かなり不安を感じておりましたが、今回、提出された修正案では、社会福祉協議会の補助金が4,000万円から2,500万円に減額となり、社会福祉協議会が昨年9月議会で附帯決議した事業改革改善計画を今回の定例会で示され、経営改善に向けての取組に対して、市が期待をされ、市も協力しながら取り組んでいくという思いの表れとして、評価させていただきます。

ただし、私が問題にしております組織編成、特に市長が会長の座にいることについては、まだ現状のままで、そこが変わらないと抜本的な改善は望めないと思っておりますが、昨日も少し触れましたが、社会福祉協議会からの定期的な決算報告をいただくことを要望いたしまして、私の賛成討論といたします。

藤井本委員長 討論、ほかにございませんか。

梨本委員。

梨本委員 令和6年度葛城市一般会計予算の原案の修正案を出していただきましたが、それも含めて私は反対の立場で討論をさせていただきます。

正直、原案修正に関しては、一定の評価をしたいというふうに考えております。それは社会福祉協議会の減額の分ということではなくて、市長答弁の中で、全体的な執行において、

予算の使い方を見直していくというような発言については、一定の理解を示させていただく。その上で、昨日、非常に悩みました。この予算に対してどのように向き合っていくのかということをお自身、自分の中でもかなり悩んだ部分がございます。しかしながら、私が予算委員会、4日間プラス昨日、本日と色々な議論をさせていただいた中で、やはり施政方針から、もともとの総合計画からぶら下がった施政方針、そしてそれに基づいた予算執行ということが、予算の編成ということができていないという部分に関しては、昨日の原案修正でも、何ら変わることはございません。

かつ、所期の目的から外れた一般財源事業を見直してほしいということをお、私はこの委員会を通じて申し上げてまいりました。財源についてもしっかりと、一般財源を投入し続けるのではなくて、そういった所期の目的を達成した事業に関しては見直していくべきだという考えは、今も変わっておりません。そのような中で、どのような協議がなされて決められたか分からないといった予算に関しましては、将来の見通し、計画に基づかないといった予算を認めるということは、やはりできないという結論に至りました。

修正案は出されましたが、一部の修正だけでは私は改善できないという立場から、今回の令和6年度葛城市一般会計予算に対しまして、反対をさせていただきます。

藤井本委員長 討論、ほかにございませんか。

奥本委員。

奥本委員 私は、今回、修正案が出てまいりまして、昨日、委員長のほうからも一旦整理してというお話いただきまして、一晩じっくり考えたわけで、最終的に今回、賛成討論をさせていただきます。

当初の、この場合、あえて原案といいますがお、原案、一番最初に出てきた案でこの委員会、長時間にわたって審議させていただきました。やはり、梨本委員、谷原委員が指摘される点も、かなり不安な点はございました。なおかつ、それにプラスアルファとして、私は特に、20周年事業の中でも特に葛城市が守ってきたデザイン性が継続されてないという点が不安だと。もう一つは、昨年度決算のときに、私、厚生文教常任委員会の委員長として附帯決議させていただいた、社会福祉協議会の指定管理の話についてがやっぱり、説明的にやっぱり不十分ではないかということで、元の原案という言い方をしますが、原案に対しては反対という意思表示をさせていただいたわけなんですがお、今回、修正案という形で出てまいりました。そこに対して、いろいろまた、もっとかなり突っ込んだ説明をいただきました。特に最初の20周年に関するところのデザイン性の継続性というか統一性というところに関しては、副市長のほうから、蓮花ちゃんを無視するわけではなくて、今回はもうスポット的に20周年のデザインを採用するというおことで、そこは継続して守っていくというお答えをいただきました。

社会福祉協議会のところに関しましては、出てきたのはまだ事業改善計画のままなんです。これが実際にどういうふうに移していくかというところは、まだ分からない状況なんです。ただ、ここで切ってしまうと、今後この移を議会がチェックしていくというところは、やっぱり難しくなってしまうんですね。ですから、これをやはり見守っていきながら、社会

福祉協議会が指定管理者として安心して任せられるかどうかという点のところは、まだ解決できていないんです。

ただ、それを考えてしまうと、今回ここでぶった切ってしまっているのかということ考えたときに1つ、今回4,000万円のところ1,500万円、社会福祉協議会の補助金、そういうふうに減額で提出されました。金額の減額の根拠というのをお尋ねして、ちょっと私の理解するところまではいかなかったんですが、ただ、この金額をここまで減らされたという点については、本気で改善計画に取り組んでいくという意思表示だと私、判断いたしました。

それと、もう一つは、これが一番最大の要因なんですけども、市長がやはり経営責任に対して、かなり踏み込んだ回答をいただいた。ここに関して、私、かなり今回の修正の予算に関しては評価できるんじゃないかということから、今回、賛成という形で討論させていただいているわけです。

ただし、先ほど申しましたように、福祉協議会の事業改善計画は、今後やっぱり見守っていく必要があります。私も附帯決議、提案させていただいたこともありますけれども、ただ、見守っていくということに関しては、今予算に対して、私、賛成しますけれども、後ほど附帯を提案させていただきたいと思っておりますので、それを併せて付け加えて、賛成討論とさせていただきます。

藤井本委員長 分かりました。ほかに討論ございませんか。

吉村副委員長。

吉村副委員長 私は、議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算につきまして、反対の立場で討論いたします。

先ほど奥本委員も触れられましたけれども、私、昨日の阿古市長が会長職も含めた経営責任について、かなりもう、私も、踏み込んだ発言をされたということについては評価をしたいというふうに思っております。ただ、ちょっと私が当初の予算で反対をしましたのはそれだけじゃありませんでして、今回、市長が令和5年度予算のときに、復旧だけじゃないと、復興予算だというふうなことをおっしゃっていた。今回も復興、復興というふうにおっしゃっています。このことについては、20周年を含めて復興という市長のお気持ちが入っているという予算であるということについては、理解をいたします。ただ、谷原委員も梨本委員もおっしゃっていますが、財源的な裏づけという部分について、やはり私は問題があるかなと思います。

何度も皆さん言及されていますので、ちょっとかぶせるのもあれなんですけども、やはり財政健全度指数というのは582位ということで、やっぱり下位に甘んじている。これは同じく、住みよさランキングを挙げている東洋経済、同じところに同じ大きさと載っている指標です。私は、いい数字をアピールすることについては、私は悪いことだとは思わないんです。ただ、予算を立てるときには、全体を見た上で予算立てをしなければいけないというふうに思っているんです。なので、そういうふうなことの中で、特に財政指数を考える中で、経常収支比率というのは重要な指標だと思うんですけども、これにつきましては、地方創生臨時交付金のことありまして、徐々に改善はしてきています。これはどこの自治体もそうなんです。

ただ、葛城市が90%、現状90%台という中であって、これは本当は70%、80%台にあるというのが健全だとするならば、やっぱりそれに近づけようとする、今があかんとかいうんじゃないくて、そこに近づけようというような意思が見られるような予算立てではないというふうなところに問題があると思います。

その中でやはり、市制20周年という名の下に、言うたら国や県からの補助がないような一般財源のものが増えていたり、これがまた継続していくものもあろうと思います。また、新しい事業を始めようとするれば、やはり、これまで一般財源から継続していた事業の中で、見直すという作業も必要と思うんですけども、そういったことも不十分であるというふうに思います。

以上のような理由から、私は今回の一般会計予算に反対するものであります。5年後とか10年後、新しくまちづくりをやっていくためには、どのような様々な事業を行うにしても、あるいは事業を継続していく上でも、財政的な裏づけが絶対に必要となると思いますので、その視点が令和6年度予算には十分見られないということを理由といたしまして、私の反対討論といたします。

以上です。

藤井本委員長 ほかに討論ないですか。

西川委員。

西川委員 私は、令和6年度葛城市一般会計予算について賛成の立場で討論いたします。

私はもう、原案にも賛成を、原案と言いますけど、ほうにも賛成をさせていただいて、そのときに付して社会福祉協議会の課題というのも洗い出しをさせていただいて、賛成をさせていただいたんですけども、今回こうやって修正を出してこられて、より賛成に、私が思っている形で賛成できるということになりました。

社会福祉協議会の覚悟を、改善するという覚悟を見せられたのかなというところについては評価させていただきますし、皆さん、まだ心配になっておられる、これからの改善した経過というのも、議員全て注視しておると思いますので、その辺は心してやっていただけたらなと思います。私は、よりいい形での賛成をさせていただけるようなことになったと思いますので。

以上です。

藤井本委員長 ほかに。

坂本委員。

坂本委員 私は、議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算について、賛成の立場から討論いたします。

予算は子育てしやすいまち葛城市を印象づける、18歳までの子どもにかかる医療費一部負担金を撤廃し、自己負担分を完全無料化する事業、また認可保育施設等に在籍する第2子目以降の保育料を無料化する事業が予算化されております。そして、高齢者にも優しい、リニューアルするいきいきセンターを活用した介護予防や認知症予防につなげるアクティブシニアフィットネス事業や、紙おむつの支給緩和も予算計上されております。私は、あらゆる

年齢層の市民へのサービスが隅々までちりばめられた予算であると考えます。

さらに修正案も出されております。一日も早く成立させ、4月から市民のために執行できるようにしなければと考えておるところであります。

以上の理由により、私の賛成討論といたします。

藤井本委員長 それでは、全委員に討論いただきましたので、討論終結をいたします。

これより議第28号議案を採決いたします。

本案を原案のとおり可決することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立多数)

藤井本委員長 起立多数であります。よって、議第28号は原案のとおり可決することに決定をいたしました。

奥本委員 委員長、動議。

藤井本委員長 奥本委員。

奥本委員 ここで賛成可決されたわけなんですけども、賛成多数で成立、可決されたわけなんですけども、ここで私は、議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算に対する附帯決議の動議を出させていただきます。ちょっと資料の方をまず、各委員のほうに配っていただきます。

(資料配付)

奥本委員 資料が行き渡ったみたいなので、説明します。

まず、提案理由なんですけども、先ほどの賛成理由にも少し述べましたけども、昨年度、決算に当たりまして、社会福祉協議会の問題が多々指摘されました。今、実は全国で社会福祉協議会の立ち位置についてというところで、いろいろ問題を指摘されているわけなんです。各自治体において、このままでいいのかという議論がやっぱり出てきているわけなんです。国も内閣府からそういった資料が出たりしているんですけども、葛城市として問題としたのは、ゆうあいステーションの指定管理者と社会福祉協議会がなっている、そこに対して、社会福祉協議会は独自事業もされているわけなんですけども、いろいろな意味で赤字が、運営に関するところの赤字が出てきておりまして、そこで基金を取り崩しているという問題が長く続いております。

このままで、指定管理者として安心して任せられるのかどうかというところが、そもそもの発端なんですよね。要するに、指定管理者として任せたんはいいけども、途中で何か問題が起こって、それが継続委託できなくなった場合に、やはり困るのは市民であり、当然ながら議会のほうもそれを承認したというところの責任を負うわけなんです。そういった意味で、昨年9月に厚生文教常任委員会で議論させていただいて、そこからの附帯決議ということで、9月定例会において社会福祉協議会の附帯決議が出たわけなんです。

もう一度、ちょっとお忘れになっているか分からないので、改めて内容を紹介いたします。これは、昨年の9月議会の議第63号、葛城市福祉総合ステーションの指定管理者の指定というところに対しての附帯決議です。葛城市福祉総合ステーション、ゆうあいステーションを令和6年4月1日から指定管理者として指定された社会福祉法人葛城市社会福祉協議会について、運営に関し、補助金を交付している立場として、市長は以下のことについて適

切に措置を講じること。記、1つ、社会福祉法人葛城市社会福祉協議会の経営状況について、状況を把握した上で、経営改善計画及び組織改革案を令和6年3月の令和6年度一般会計予算についての審議までに議会に示すことという内容でした。これに対して、葛城市社会福祉協議会事業改善計画というのが提出されました。また、この委員会の審議の中で、谷原委員からいろいろ、過去のこの辺の補助金の推移の資料とかも追加で出していただいて、検討を進めたわけでございます。

それで終わればいいんですけども、実際、我々が疑問視しているのは、この計画じゃないんですよ。計画が遂行されて、安心して任せられる指定管理者となり得るかどうか、やっぱり問題となります。そういった意味で、私は前回の附帯決議が継続して生きていかないと、今予算に対してはやっぱりまずいんじゃないかということから、葛城市社会福祉協議会事業改善計画が遂行されていくかどうかをチェックする機能をつけるべきだと思います。

そういった意味で、特に何かというと、説明の中でもございましたように、特に見守っていかないといけないところ、組織のコミュニケーション不足が原因だったということで、それがこの計画によって解消されていくのか。また、非常に赤字要素の大きい独自事業が、内容をどう改善して黒字化していくのか。さらには収益に関するところ。今の会費や寄附金の在り方の推移も見守っていかないと、やはり駄目なわけです。そういった意味で、私は、お手元にお配りした議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算に対する附帯決議案を提出させていただきます。

内容を朗読いたします。

令和5年9月25日付の附帯決議に基づき、社会福祉法人葛城市社会福祉協議会より提出された葛城市社会福祉協議会事業改善計画において、経営改善計画が示されたことは一定の評価ができるが、その執行状況については、継続してチェックする必要がある。よって、社会福祉法人葛城市社会福祉協議会会長である市長に対し、以下の内容についての定期的な報告を求める。記、1つ、葛城市社会福祉協議会事業改善計画に基づく業務改善状況報告。2つ、葛城市社会福祉協議会事業改善計画に基づく財務改善状況報告。上記について、3か月ごとに議会に示すこと。

以上です。

藤井本委員長 ただいま議第28号議案に対する附帯決議案の説明をいただきました。

これより、この附帯決議案に対する質疑に入ります。質疑はないですか。

谷原委員。

谷原委員 この附帯決議について、今、初めて私も聞いたわけですがけれども、附帯決議を上げるのが、本会議で附帯決議をつけるのもそうなんですけれども、前回、附帯決議を上げて、葛城市社会福祉協議会事業改善計画を担当部課で、本当に一生懸命、社会福祉協議会のほうに出向いていただきまして、非常に努力して、しっかりした改善計画が出されてきたと思います。これについては、厚生文教常任委員会で基本的には報告も受け、審査もしてきたところだと思います。

この附帯決議、前回の附帯決議、非常に議会の附帯決議を大変、真摯に受け止めていただ

きまして、こういう改善計画が出たところでありますので、これからやっていくことについては、原課のほうでも様々努力されていることもありますし、私は厚生文教常任委員会の調査案件で十分ではないかなと。3か月に1回報告を義務づけるということは、議員の全員協議会に報告する、議会の附帯決議になりますので、ここら辺の関係が分からないんです。

つまり、私は調査案件としてこれまでもやってまいりましたし、報告程度であれば、改善計画がちゃんと進んでいるかどうかについては、その都度、厚生文教常任委員会に報告をいただくということで、私としては、今のところは十分ではないかなと思っておるんですけど、そこら辺についてお考えをお聞かせください。

藤井本委員長 ちょっとお待ちくださいね。私のほうで説明が漏れておりました。ただいま議論をさせていただいておりますのは、議第28号議案に対する附帯決議案を議題として、今、議論を進めておりますので、よろしく願いいたします。

奥本委員。

奥本委員 今、谷原委員から、この件に関しては所管の厚生文教常任委員会で、何というか、審議したらどうかというご意見がございましたけども、確かに社会福祉協議会というところは厚生文教常任委員会で論ずるべきところなんですけども、指定管理の問題なんです、これは。私は指定管理事業、そもそもの9月の決議に立ち返ったら、指定管理事業者として適切かどうかというところがやはりポイント、ウエートが大きいと思っています。そうなってくると、指定管理に関するところはもう、厚生文教常任委員会だけじゃなくて、やはり総務建設常任委員会の範疇でもございます。

今回、たまたま社会福祉協議会が俎上にのっておりますけども、実は指定管理の問題というのはこれだけじゃなくて、ほかのところにもやっぱり波及する可能性もございます。そういった意味で、一旦議会でこれを見守っていく必要があるんじゃないかということで、今回、それとかつ、予算特別委員会の予算に絡むところでの決議ということで提案させていただいております。

藤井本委員長 今は議第28号議案に対する附帯決議案についてでございます。質疑。

谷原委員。

谷原委員 議会運営に関わることにもなりますので、ちょっとお聞かせ願いたいんですけど、指定管理者制度の問題について私も取り上げてまいりましたけれども、全体については企画政策課が所管なので、その所管として議論すると。例えば道の駅かつらぎとか農畜産物加工所當麻の家は農林課の所管だから、指定管理の問題ではそこでも議論すると。だから、そういう基本的な、うちは委員会制度を取っておりますので、そこで議論をしていくと。

予算は特別委員会ですから、基本的には会期ごとに、人事も基本的には選び直すということが建前になっておりますので、私は安定的にずっと見ていく点では、所管の厚生文教常任委員会の調査案件で継続的に見ていくと。そのほうが担当課とも調整もしやすいし、一緒に協力してやっていけるように思いますので、意見として申し上げておきます。

以上です。

藤井本委員長 討論等もございますので、また、討論でお話しされたいかと思っております。

今、質疑でございます。質疑について、ほか、ございませんか。

梨本委員。

梨本委員 理事者側にも聞けるんですね。

藤井本委員長 確認ということで聞けます。

梨本委員 確認ということでいいんですね。今回、ちょっと今日、急に見せていただいたんで、可能かどうかということを確認させていただきたいんです。というのも、業務改善状況の報告であるとか財務改善状況の報告を3か月に1回というふうになってくると、当初予算に附帯をつけるということで、1年間にわたって3か月ごとということだと思えるんですけども、そもそも社会福祉課が、課長のほうから説明をいただいたり部長から説明いただいているのは、この1年間に関してはコロナ前に戻していくんだと。3年を通じて改善をしていくんだというところで、恐らくご説明いただいたと思いますし、私もやっぱりそれぐらいの時間的な経過というのは必要ではないかなというふうに考えるんです。

特に、今回、人事交流ということで、事務局長も行かれますけれども、昨日も言いましたが、かなり大変やと思うんですよ。相当つらい作業になると思いますし、何も知らない、誰も知らない中に1人、もちろん2人行かれますけれども、飛び込んで、そこを改善していかないといけないとなったときに、3か月で本当に、こういう報告を求めたときに、どれだけの報告が返ってくるのかということに関しては、私、非常に心配をするんですが、その辺り、ちょっと所管課として、3か月で改善計画、もちろん私も、奥本委員がおっしゃるように、あまり踏み込んで、経営の中身に踏み込むということは駄目ですけども、また指定管理に関してももう、今回、5年間の議決を、議決というか、厚生文教常任委員会で5年間ですか、議決していますので、そこに対する附帯だったらある程度、そういう報告もあるのかなと思うんですけども、今回、当初予算に対する附帯になっていますので、その辺りも含めて、ちょっと考え方、1回整理するためにお聞かせいただけますか。

藤井本委員長 森井部長。

森井保健福祉部長 保健福祉部の森井でございます。ありがとうございます。私どももこのお話を聞いて、すごく不安になっていたところがございます。

まず、社会福祉法人社会福祉協議会、一般の民間企業、通常でしたら1年に1回の決算があるからこそ財務状況報告ができる。それを3か月ごとにとということになりますと、当然、役所と違って会計は複式簿記で未払金等が出てきます。そういった意味で、正確な数字を出すのはすごく難しいと考えます。

それと、業務改善報告という意味でいいますと、実は先日、私どもも途中経過をチェックするためには、事業改善計画の中にそういう指標をつけたいと考えました。1つの例としまして、金額には反映しませんが、目標値の人数、1か月当たりの人数を、数値を超えているかどうかを見ることによって、それに近い金額まで伸びるのではないかとことを評価できる、その数字をお示しさせていただいております。そういった意味では、厚生文教常任委員会でもしお答えさせていただくとすると、この計画値に対して今現在、利用者数が1か月当たり何人というところまで来ています、目標値は100名です、今90名ですといった形で、

近づいてきているという辺りをご報告することはできるような形の業務改善計画としています。

ただし、サービスをお受けになられる方、それぞれの単価は違いますから、単純に人数だけではいけないんですが、目標値としてはそれに近い数字になってくるのではないかという辺りまでを、計画値の中に示させていただいたところでございます。

これぐらいでよろしいでしょうか。

藤井本委員長 梨本委員。

梨本委員 私もちっと心配なのは、基本的に月次決算をやっているところは月次で決算状況というのは把握していて、そういうことをやっている企業も多いんですけども、社協がそういう体制になっているのかどうかというの、ちっと確認しないことには、財務改善状況、業務改善状況に関しては先ほど部長おっしゃられたように、そういう報告を受けることは可能かなというふうに思いますし、内容について、こういうところの改善できるということはあるんですけども、ちっと財務改善状況というところに関しては、少し私も引かかるかなというか、本当に可能なのかなというか、過度な負担を社会福祉協議会に対しても、派遣される職員に対しても与えてしまうことになる、ちっと議会として、それはもちろん奥本委員が望んでいらっしゃるのではないかと思いますので、その辺り、ちっと気になっているということだけ、意見だけ申し上げます。

藤井本委員長 奥本委員。

奥本委員 何というか、細かなところまで求めている意味じゃないんです。というのは、なぜ3か月かというところからまず説明しますけども、定例会ごとに報告を欲しいというのが、まず3か月という意味合いで、絶対に3か月で細かいところまで精査してというわけじゃない。要は、今、現状の進捗を報告いただくということが目的なんです。財務改善状況なので、私、だからどれぐらい改善しましたという程度のところを想定した上で書いてある。だから、細かな貸借対照表まで出して説明しろというところの意味合いじゃないんです。書き方が悪かったのかもしれませんが。

梨本委員おっしゃるように、これが逆に負担になって、本来のやらなければいけないことができないというのは本末転倒ですので、それは望んでおりません。あくまでも昨年度9月の附帯決議があつて、その流れの延長線上で、見守っていかないといけないよというところの提案なんです。ですから、期間が3か月じゃなくてもいいわけなんですけど、その辺が議会としてチェックできれば、別に6か月であっても私は構いませんし、谷原議員おっしゃるように、委員会の附託として、それが遂行されるのであればそれでも構いません。だから、3か月議会に示すということに関しては、特にこだわりはないということはちっと申し添えておきます。

藤井本委員長 ここで暫時休憩します。

休 憩 午後4時53分

再 開 午後5時22分

藤井本委員長 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

議第28号議案に対する附帯決議案を議題としております。

ほかに質疑ございませんでしょうか。

奥本委員。

奥本委員 先ほど提出いたしました附帯決議案につきまして、各委員のほうからいろいろ、様々なご意見をいただきました。それを基にちょっと再考いたしまして、今回の附帯決議案を一部修正させていただきたいと思っております。修正箇所は、記のところの1、2とございましたが、2をまず全部削りまして、1の葛城市社会福祉協議会事業改善計画に基づく、その下、状況報告というところに簡潔にまとめさせていただきたいと思っております。さらに、その下にあった、上記について3か月ごとに議会に示すことというところをもう全文削除という形で、修正した附帯決議案に変更させていただきたいと考えております。

藤井本委員長 ただいま附帯決議案の修正の申出がございましたので、ここで暫時休憩をいたします。

休 憩 午後5時23分

再 開 午後6時10分

藤井本委員長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

休憩前に、議第28号議案に対する附帯決議案につき、修正の申出が、奥本委員から申出がございました。修正後の附帯決議につき、説明を求めます。

奥本委員。

奥本委員 では、先ほど休憩前に修正箇所を申し上げましたけれども、改めて修正した文書を朗読いたします。

議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算に対する附帯決議案。令和5年9月25日付の附帯決議に基づき、社会福祉法人葛城市社会福祉協議会より提出された葛城市社会福祉協議会事業改善計画において、経営改善計画が示されたことは一定の評価ができるが、その執行状況については、継続してチェックする必要がある。よって、社会福祉法人葛城市社会福祉協議会会長である市長に対し、以下の内容についての定期的な報告を求める。記。1つ、葛城市社会福祉協議会事業改善計画に基づく状況報告。以上、決議する。

以上です。

藤井本委員長 修正の附帯決議について、ただいま説明がございました。

これより質疑に入ります。質疑ございませんか。

谷原委員。

谷原委員 先ほども私、質問しましたけれども、もう、この内容であればもう、所管の常任委員会の調査案件と全く変わらない内容であります。なぜ附帯かということについてお聞きします。附帯決議を上げるかということについてお伺いします。

藤井本委員長 奥本委員。

奥本委員 一番最初の賛成討論のところで申し上げましたけれども、前回、予算の原案という表現はおかしいのかわかりませんが、修正案が出る前のところで私が反対と投じました。そのときの1つの理由として、社会福祉協議会、その他もう一つ、20周年記念事業のことに対する反対の意見を申し上げましたけれども、そこのところが、一定程度の改善が見込まれた。特

に今回の修正案に関しては、社会福祉協議会に対する補助金の減額、減額の根拠のところがよくまだはつきりしなかったんですけど、ただ、これだけの多額の減額修正を出してこれらということに対しては一定の評価ができるのと、併せて社会福祉協議会を改善していこうという強い意思を感じられた。だから、ただ、それをもってもろ手を挙げて賛成というわけではありませので、この附帯をつけさせていただいたわけでございます。

藤井本委員長 谷原委員。

谷原委員 よく分かりました。修正された原案に対して、それを前提とした附帯決議だということがよく分かりました。ありがとうございます。

藤井本委員長 ほかに質疑ないですか。

(「なし」の声あり)

藤井本委員長 質疑がないようですので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論ございませんか。

谷原委員。

谷原委員 私は、議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算に対する附帯決議案に反対の立場から討論いたします。

私は、令和6年度葛城市一般会計予算には反対の立場で意見表明いたしました。しかしながら、先ほどありましたように、この附帯決議は、修正に対してそれをさらに強化するという部分でつくられたという動機を今、お話しになりました。そういう面からも私は、1つは賛成はできないところがありますけれども、そもそも附帯決議においては、やはり通常の委員会活動以外にも、ここは議会であることをはっきり打ち出す決議であるべきであろうかと思えます。

前回、社会福祉協議会の事業改善計画を求める附帯決議におきましては、過去になかった、このことを求めるものでありますけれども、今回の附帯決議は、葛城市社会福祉協議会事業改善計画に基づく状況報告ということであります。これは既に厚生文教常任委員会においても報告されておりますし、市長も重ねて改善計画に基づく事業改善を行うということについては、議会ともしっかりと報告させていただくということも常々おっしゃっておられますから、あえて附帯決議をつける必要は、私はないと考えております。

以上です。

藤井本委員長 ほかに討論ないですか。

坂本委員。

坂本委員 私は、議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算に対する附帯決議案に対して反対の立場で討論いたします。

谷原委員もおっしゃいましたけれども、この案件は厚生文教常任委員会の調査案件で取り上げて話し合えばよいと考える。その理由で反対させていただきます。

藤井本委員長 討論、ほかに。

柴田委員。

柴田委員 私は、議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算に対する附帯決議に賛成の立場で討論

いたします。

コロナ禍において赤字に転落した経営を黒字に戻すということは大変なことだと思っております。やはり定期的な報告をいただいて、改善状況を見ることによって、社会福祉協議会が継続的に経営改善に努力される後押しにもなるのではないかというふうに考えております。よって、私は議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算に対する附帯決議に賛成いたします。

藤井本委員長 討論、ほかに。

西川委員。

西川委員 私は、議第28号、令和6年度葛城市一般会計予算に対する附帯決議案に賛成をいたします。

先ほど僕、賛成のときにも、やっぱり注視をしていって、社会福祉協議会、議員全部、気になっているところがございますので、報告をいただきたいというふうに思っておりました。こういう形で今、附帯を出していただいておりますので、私は賛成なんですけど、やっぱり私、厚生文教常任委員でもありませんし、どこでやるかは、ちょっとまた議論をしていただきたいんですけど、やっぱり議員全てが気にしていることでございます。そやから、やっぱりどこかの、それが議員全員協議会になるのか、ちょっとどこか分からないですけど、やっぱり厚生文教常任委員会の委員メンバー、僕、総務建設常任委員なので、委員メンバーだけじゃなくて、やっぱり気にしている議員、もちろん委員外議員で聞きにきたらええやんという話もあるかもしれませんが、やっぱりみんながおるところできっちりと報告をしていただけたらなと思います。

賛成で、以上です。

藤井本委員長 討論、ほかに。

(「なし」の声あり)

藤井本委員長 討論ないようですので、討論を終結いたします。

これより採決をいたします。議第28号議案に対する附帯決議案に対し、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立少数)

藤井本委員長 賛成少数であります。よって、本案は委員会により否決されました。

次に進めます。

次に、議第35号、令和6年度葛城市水道事業会計予算の議決についてを議題といたします。

職員の方、入れ替わっていただきますので、少しお待ちください。

(理事者入替え)

藤井本委員長 本案につきましては、さきの予算特別委員会で説明がありましたが、原案の修正案が提出され、本会議において承認をされましたので、改めて理事者より、修正部分に関する提案者の内容説明を求めます。

井邑上下水道部長。

井邑上下水道部長 お疲れさまです。上下水道部の井邑でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

ただいま議題となりました令和6年度葛城市水道事業会計予算の原案修正につきまして、ご説明申し上げます。

修正内容につきましては、土地購入費を減額するものでございます。修正案資料に基づきまして、ご説明申し上げます。1枚ページをめくっていただいて、修正前、修正後の対照表をご覧ください。左が修正前、右が修正後となっており、修正部分には下線を引いております。

第4条、資本的収入及び支出におきまして、本文括弧書き、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額5億3,001万1,000円を4億9,913万1,000円に改め、補填財源のうち、建設改良積立金3億1,936万3,000円を2億8,848万3,000円に改め、支出の部、1款資本的支出、1項建設改良費5億2,905万9,000円から3,088万円を減額いたしまして、4億9,817万9,000円とし、資本的支出の総額を5億1,137万1,000円とするものでございます。

そして、第8条、重要な資産の取得及び処分につきましては、全部を削ります。ページを1枚めくっていただいて、下のページ、予算明細書をご覧ください。1款資本的支出、1項建設改良費、4目固定資産購入費、5節土地購入費で、修正前の金額3,088万円から全額減額いたしまして、修正後の金額をゼロ円といたします。

以上、簡単ではございますが、説明といたします。なお、この修正により変更となります予定キャッシュフロー計算書及び予定貸借対照表を次のページ以降に添付しております。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

藤井本委員長 ただいま説明願ひました本案に対する質疑に入ります。

なお、修正部分以外についても質疑をしていただいて大丈夫ですので、ご承知おきください。

質疑ございませんか。

谷原委員。

谷原委員 まず、土地の購入について、それを削除するということやから、今年度予算では買わないと。補正予算等で出てくるのかもわかりませんが、削除した理由について、今、説明がなかったので、なぜ修正するか理由をまず、お話しただけたらと思います。

藤井本委員長 井邑部長。

井邑上下水道部長 上下水道部、井邑でございます。

ただいまのご質問でございます。削除した理由でございますけれども、先日の予算特別委員会におきまして継続審査となっております。その理由が土地購入費3,088万円の部分でございます。委員様たちから意見をいただいたのが、まだ水道ビジョンが示されていない、計画のない中で、なぜ、今、買うのかという中での継続審査となったように捉えております。ですので、今回は一旦、土地購入費を減額させていただきたく、修正させていただきます。

以上です。

藤井本委員長 谷原委員。

谷原委員 ということは、ここは3つほどの理由を挙げられて、購入するということが提案されました。つまり、必要なものだから購入するということですが、今のお話だと、そのときに、いや、ビジョンに示していないのに、将来の水道事業の計画が出ていない段階で、先に先行取得するのはどうかということの意見が相次いだから取り下げるということで、将来的には必要な土地として買うということを考えておられるのかの点についてお伺いします。つまり、ある程度ビジョン等ができましたら補正予算等で上がってくる、あるいは新年度予算、来年度の令和7年度予算で上がってくるというふうに考えたらいいか。つまり、この土地は必要なものとして、購入するという意思はあるということによろしいでしょうか。

藤井本委員長 阿古市長。

阿古市長 前回の予算特別委員会の席でも申し上げたと思います。今回の土地の購入に当たりましては、必要な土地だという認識で、行政のほうからは、水道のほうからは上げております。ですので、必要だという意識という認識は変わっておりません。ただ、土地の購入に対しましては、議会では特別委員会、葛城市の水道水に関する調査特別委員会を設置していただいております。葛城市の水道水に関する調査特別委員会の場で、土地の購入につきまして、まだ説明不足であるというご指摘をいただきました。その辺の認識も共有いたしまして、今回は議論を特別委員会で深めていただいた後に、予算計上をしたいという考え方に変えさせていただきました。

以上でございます。

藤井本委員長 谷原委員。

谷原委員 分かりました。本予算特別委員会での議論の中で、ビジョンとの関係が出てきたので、それで葛城市の水道水に関する調査特別委員会において説明の上、その後に予算計上したいということでありました。

その上で意見であります。私、どんな土地か、今日、見てまいりました。ちょっと驚きました。ぜひ議員の皆さんも、市内にある土地でありますし、水道局の近くでありますから、一度ぜひ現地に行かれて見ていただきたい。その上で、3つほど、実際に必要な土地ということでありましたので、その上でちょっと葛城市の水道水に関する調査特別委員会の中で、大いに議論をしていただけたらというふうに思っております。

ここで私、1つ区切りをつけて、質問を終わります。ほかの方があれば、なければ、また質問します。

藤井本委員長 ほかに質疑ございませんか。

(「なし」の声あり)

藤井本委員長 ないようですので、あればどうぞ。

谷原委員。

谷原委員 私もこの土地について、ちょっとそういう土地なものですから、非常にいろいろ疑問もありまして、いろいろと調べました。それで、所有者はまず何人か、ちょっとお聞きしたいんです。何人の所有者かと。ほんで、問題は、水道局のほうからここは欲しいと所有者に働き

かけられたのか。それとも所有者の側から、いや、この土地をかうてほしいというふうにもそも話があったのか。このことについて伺います。

藤井本委員長 委員会の進め方ですけども、水道の予算において、ここを削除されましたので、だから、それについては葛城市の水道水に関する調査特別委員会で皆さんと議論をしたいと申されているので、そのように進めていきたいと思っておりますけども。

ほかに。

谷原委員。

谷原委員 ありがとうございます。私もいろいろ、また葛城市の水道水に関する調査特別委員会で議論したいと思っております。ただ、いろいろの、これはぜひお願いしたいんですが、先行取得ということで、そこでしっかりと議論をして、一応、水道、今おっしゃったとおりのような形で、手順でしっかりやっていただきたいと。中には、土地開発公社で買うたら議会の議論は要らないから、それで買うのと違うかというふうな心配をされるような議員もおられましたから、だけど、今日の、先ほどの答弁では、葛城市の水道水に関する調査特別委員会でちゃんと議論した上で、これを話をしたいと、購入していきたいということでしたので、そのときの議論にしたいと思っております。申し訳ありません。

藤井本委員長 ほかに質疑ないですか。

(「なし」の声あり)

藤井本委員長 質疑ないようですので、質疑を終結いたします。

議員間討議、希望される方おられませんか。

(「なし」の声あり)

藤井本委員長 なければ、これより討論に入ります。

討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

藤井本委員長 討論ないようですので、討論を終結いたします。

これより議第35号議案を採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

藤井本委員長 ご異議なしと認めます。よって、議第35号は原案のとおり可決することに決定をいたしました。

ここで委員外議員からの発言の申出があれば、許可をいたします。

(「なし」の声あり)

藤井本委員長 以上で、本委員会に付託されました議案の審査が終了いたしました。

これをもちまして予算特別委員会を閉会いたします。ご苦労さまでございました。

閉 会 午後6時30分

委員会条例第28条の規定によりここに署名する。

予算特別委員会委員長 藤井本 浩